

<金標準、円高の悪材料で目先は調整場面・・・>



(出所：オアシス)

パウエル FRB 議長は上院銀行員会で半期に一度の議会証言を行い、利下げ時期を示す発言は控えたが、雇用市場において「冷え込みの兆候が増えている」と強調するなど「高金利が労働市場に及ぼし得るリスクが当局者の間でますます懸念されている」と述べるなど、データ次第では年内の利下げに対する前向きな発言に受け止められている。またインフレ指標である消費者物価指数(CPI)は2020年5月以来のマイナス0.1%と低下を示すなど、市場は9月の利下げ確率を76%へ引き上げ、年内2回の利下げも織り込みだしている。ただ為替市場では、CPIの発表時に財務省は3兆5000億円の円買い介入を実施した可能性が高い4円近く円高の動きを見せ、PPIでも一時157.38円まで円高が進む動きを示している。そのためNY金は市場最高値である2450.07ドルに迫る動きを見せたが、金標準先物は円高に阻まれて12210円まで下値を模索するなど両極端な値動きを示している。そのため円安の恩恵が消えた状態であれば、金標準先物は目先調整安に注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが下げだし、シグナルも上昇が止まり、RCIでも短期が切り下げだし、長期は+96%を維持している。特に日足が10日移動平均線を下回るなど上昇に対する警戒感を示しており、再度12200円を下回る値動きに注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,550,000 円(2024 年 7 月 16 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2024 年 7 月 16 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>